

平成28年度

秋田県農地中間管理事業中央ブロック
現 地 研 修 会 資 料

農事組合法人「かみさんない」 の取組状況について



日時：平成28年8月2日（火）13：30～
秋田市河辺岩見三内地区コミュニティーセンター

農事組合法人 かみさんない
代表理事 鎌田 英文



「中山間地域の最後の砦」 若手と共に生きる集落型法人

農事組合法人 かみさんない

〒019-2742

秋田県秋田市河辺三内字留見瀬野81

1 経営発展の経過

●昭和51年

集落農場化運動を背景に、上三内地区5集落の農家（140戸）が『上三内地区稲作集団栽培組合』を設立。

●平成14年

地域内の担い手農家不足等から将来の集落農業への危機感を感じ、既存稲作集団栽培組合を発展させ、12月11日に「農事組合法人かみさんない」を設立。

12月17日には、秋田市内初の特定農業法人となり、農地の集積を通じて、地域農業を守る法人としての運営を開始。

●平成15年

J A新あきた管内の農業法人では初めてとなる、アスパラガス栽培（0.6ha）を開始。現在では栽培面積を5.4haに拡大。

●平成16年

秋田管内で初めて促成アスパラガス栽培に取り組み、露地・促成栽培の作型を確立し、管内の栽培農家のモデルに位置付けられる。

●平成22年

農の雇用事業を活用し、法人経営の中心となる就農者を募集。現在まで20代2名を含む4名を雇用。

●平成24年

県の推進品目で、市やJ Aも重点推進品目に掲げているダリアの栽培を始め、「ハウス電照栽培」（1棟388㎡）を導入。

2 経営内容

（1）周年農業体系確立し地域に貢献

法人設立当初からアスパラガス栽培に取り組み、現在では、露地栽培と促成栽培を組み合わせた長期出荷体系を確立している。

また、地元の高齢者を通年雇用しており、地域の雇用を創出する企業の一つに位置付けられている。



【アスパラガスの収穫作業】

（2）地域雇用・農地の受け皿

農業者の高齢化に伴い耕作放棄地の増加が懸念される中、地域内に限らず地域外の農地も広く請け負い、地区農業・農地の受け皿となっている。

この取組は、秋田管内の中山間地域での地域農業を守るモデルケースとして、周辺地域の農業法人や他地域の法人化を目指す集落等からも注目され、多くの視察者が訪れている。

（3）法人経営を担う後継者の育成

法人構成員の高齢化に伴い、新たな担い手の確保にいち早く取り組み、農業経験の有無を問わず意欲

のある若い青年を迎えるため、地域内外から広く後継者となる人材を募集し、現在では、地域外の若手農業者も雇用し、農業経営の手法や栽培技術を伝えながら、後継者として育成している。

(4) その他

法人の代表は、JAの野菜部会長や園芸アドバイザーを務めており、これまで法人で培ってきた技術力を活かして、農家の指導を行うなど、地域農業者の模範となっている。



【中山間地域での耕起作業】

(5) 経営の現状

主 要 経 営 状 況	主 要 作 目 と 規 模	戦 略 作 目				稲 作					
		アスパラガス	えだまめ	ダリア							
	労働力の状況	5.4ha	1.2ha	0.5ha		52.7ha					
現 状	主な農機具及び施設	構成員数	構成員常時従事者数	常時雇用者(延べ)	臨時雇用者(延べ)						
		5 名	1 名	4 名	1500名						
		種 類	台数	導入年度	性 能	利用した補助事業と融資制度	備 考				
		トラクター	4	S63～	32ps・43ps・50ps・65ps						
		コンバイン	1	H16	6 条刈り	スーパー L 資金					
		パイプハウス	7	H16	240㎡	スーパー L 資金					
		田植機	1	H17	6 条						
		田植機	1	H18	8 条						
		ハウス用温風器	3	H23							
		パイプハウス	4	H25	388.8㎡	県単事業					
乾燥機	6	H25	5.5 t	県単事業							
経営規模拡大の概要	年 次		H15	H23	H24	H25	H26				
	作 目	水稻	4.0	→	32.2	→	40.0	→	48.7	→	52.7ha
		アスパラガス(露地)	0.6	→	2.0	→	2.0	→	2.3	→	3.2ha
		(促成)	0.0	→	2.0	→	3 (株養成)	→	2.2	→	2.2ha
		えだまめ	0.0	→	0.3	→	0.3	→	0.3	→	1.2ha
		ダリア	0.0	→	0.0	→	0.2	→	0.2	→	0.5ha

(6) 作目体系図

作目名	面 積 規 模	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	生産量 又は 出荷量	備考
アスパラガス	4.5													6t	
えだまめ	0.3													2t	
ダリア	0.2													5,155本	

3 消費者や実需者等ニーズ に対応した取組

(1) 多様な販売チャネルを開拓

主な販売先はJAや秋田青果市場としているが、JAの直売所（いぶきの里）や近隣温泉保養施設、学校給食等々にも出荷するなど、多様な販売チャネルを持っている。

特にアスパラガスは、市内大手の焼き肉店と直接契約を結んで取引している。この焼き肉店では、店舗イベント時に、目玉商品の1つとしてアスパラガスが提供しており、消費者からは地場産のおいしい野菜として好評を得ている。



【アスパラガスの出荷調整作業】



【結束されたアスパラガス】

(2) 冷涼な気候を活かした出荷体系

中山間地域に位置する上三内地区は、夏場でも冷涼なため、出荷時期が平場に比べて遅くなり、地元産の作物をより長く提供できることで喜ばれている。市場や近隣温泉保養施設では高値で取引され、法人経営の所得向上につながっている。

(3) 消費者ニーズにマッチした品種構成

米は、首都圏を中心に県外の消費者からも幅広く

注文を受けている。消費者の声をできるだけ反映させた品種を取り扱うこととし、「あきたこまち」のほか、「めんこいな」等の作付も行っている。

4 技術紹介

(1) 土づくり

栽培面では土づくりを重視し、近隣の畜産農家と連携して、堆肥を積極的に投入している。

(2) アスパラガス周年栽培技術の確立

アスパラガス栽培には法人設立当初から取り組み、現在では栽培面積が5.4haまで拡大している。

また、法人の周年雇用を目的に、平成16年に管内で初めて「促成アスパラガス」栽培を始め、周年栽培体制を実現している。

栽培歴は約10年になり、その技術は管内のアスパラガス栽培に取り組む農業者等の手本となっている。

(3) ダリアのハウス電照栽培への取組

平成24年度からは、法人のさらなる発展に向けて、経営に花き部門を導入し、県の重点推進品目であるダリアの栽培に取り組んでいる。

当時、県内では露地栽培が主体となっていたが、長期採りの新技術として注目されている「ハウス電照栽培」にいち早く取り組んだことで露地栽培での出荷が10月中旬までとなる中、11月中旬までの長期間の生産・出荷が可能となっている。



【ダリア栽培ハウス】

5 その他特記事項

活性化に一役を担い、中山間地域農業の「最後の砦」となっている。

(1) 後継者の確保・育成

地域内での後継者確保が難しい中、地域外からの担い手確保にいち早く取り組み、現在は「農の雇用事業」を活用しながら、担い手の確保・育成に努めている。

若手農業者の雇用に当たっては、単なる雇用ではなく、農業の楽しさや経営の楽しさを伝えながら、将来、法人の担い手として定着してもらうことを期待し、後継者の育成に取り組んでいる。



【若手農業者の農作業の様子】

(2) インターンシップの受入

毎年、岩見三内中学校の生徒を受け入れ、アスパラガスの収穫や出荷調製作業などの体験学習を通じて、地域農業の良さを伝えている。



【岩見三内中学校生徒のインターンシップ】

(3) 中山間地域最後の砦

本法人は、高齢化によりリタイアする農家から農地を積極的に引き受け、地域農業の担い手となっているほか、「ダリア」栽培等の新たな取組を通じて雇用を生み出すなど、耕作放棄地の発生防止と地域